文節

組	番	月	日	正答数
名前				／4

ねらい ●文節について理解する。

要点チェック

●**文節**…文を、意味をこわさない程度にできるだけ小さく区切った単位。

〈**文節の分け方**〉

話し言葉の「ネ」「サ」「ヨ」を入れて、不自然にならないところが文節の切れ目。

ぼくは（サ）昨日（ネ）体育館で（ネ）遊んだ（ヨ）。

山の（ネ）ふもとの（ネ）大きな（ネ）建物が（サ）市役所だ（ヨ）。

夕焼けが（サ）きれいだから（ネ）明日も（サ）よい（ネ）天気に（ネ）なるだろう（ヨ）。

例題

次の文は、いくつの文節からできていますか。その数を書きなさい。

テーブルの上にみかんがある。

「ネ」を入れて文節に区切る。

⇩

テーブル（ネ）の（ネ）上に（ネ）みかんが（ネ）ある（ネ）。

「ネ」を入れても、不自然にならないところを探す。

答え 四

問題

次の**1**～**3**のうち、文節の分け方が正しいものを、一つ選びなさい。 〔　〕

1 父の／助言を／受けて／成功した。

2 父の／助言を／受け／て／成功し／た。

3 父／の／助言／を／受け／て／成功し／た。

問題

次の各文はいくつの文節からできていますか。その数を**漢数字**で書きなさい。

(1) 今日は朝から天気が悪い。 〔　〕

(2) 友人といっしょに図書館で勉強をする。 〔　〕

(3) 小さな犬がとつぜん車道に飛び出した。 〔　〕

文節

1

(1) 四
(2) 五
(3) 五

ワンポイントアドバイス

「父／の／助言／を／受け／て／成功し／た。」は単語で分けていることを理解しましょう。

(1) 今日は(ネ)朝から(ネ)天気が(ネ)悪い(ヨ)。

(2) 友人と(ネ)いっしょに(ネ)図書館で(ネ)勉強を(ネ)する(ヨ)。

(3) 小さな(ネ)犬が(ネ)とつぜん(ネ)車道に(ネ)飛び出した(ヨ)。

文節

月　日　年　組　番　名前

正答数　／21　自己評価マーク

J1JA3_003

1 次の各文はいくつの文節からできていますか。その数を**漢数字**で書きなさい。

(1) 何度も繰り返した。　〔　〕
(2) 暑い日が続いた。　〔　〕
(3) 秋風が葉を散らした。　〔　〕
(4) 空には白い雲がうかんでいた。　〔　〕
(5) その山のふもとには小さなお堂がありました。　〔　〕
(6) いくらがんばっても優勝するのは難しい。　〔　〕
(7) 私たちの周りにも多くの自然がある。　〔　〕
(8) 桜の花が咲くころには兄はもう日本にいない。　〔　〕
(9) 急な坂道を息もつかずにかけ上がる。　〔　〕
(10) 遠くから犬の遠吠えが聞こえてくる。　〔　〕

2 次の各文に／を入れて、文節に分けなさい。

(1) 犬といっしょに遊んだ。
(2) テーブルの上にバナナがある。
(3) 犬と猫が草原を走る。
(4) 彼はいつも熱心に勉強している。
(5) 図書館に行って本を借りよう。
(6) 近所の川でザリガニをたくさんとりました。
(7) 公園には大きな花が咲いている。
(8) よく晴れた日に見る夕日はさぞ美しかろう。
(9) 雨が降っていたのは昨日の朝だった。
(10) 周りの空気がピンと張りつめていた。
(11) 妹も食べたがっていたので買ってみることにした。

文節

1

(1) 二　(2) 三　(3) 三　(4) 五　(5) 六　(6) 四　(7) 五　(8) 八
(9) 五　(10) 五

2

(1) 犬と／いっしょに／遊んだ。
(2) テーブルの／上に／バナナが／ある。
(3) 犬と／猫(ねこ)が／草原を／走る。
(4) 彼(かれ)は／いつも／熱心に／勉強して／いる。
(5) 図書館に／行って／本を／借りよう。
(6) 近所の／川で／ザリガニを／たくさん／とりました。
(7) 公園には／大きな／花が／咲(さ)いて／いる。
(8) よく／晴れた／日に／見る／夕日は／さぞ／美しかろう。
(9) 雨が／降って／いたのは／昨日の／朝だった。
(10) 周りの／空気が／ピンと／張りつめて／いた。
(11) 妹も／食べたがって／いたので／買って／みる／ことに／した。

単語

組	番	月	日	正答数
名前				／3

ねらい ●単語について理解する。

要点チェック

●単語…それ以上分けることができない、言葉のいちばん小さい単位。

〈単語の分け方〉

まず文を文節に分け、さらに単語に分けていく。

ぼくは大きな船の模型を作った。
← ぼく｜は　大きな　船の　模型を　作った｜。
← ぼく｜は　一大きな　一船一の　一模型一を　一作っ一た。

父はとても静かな人です。
← 父｜は　とても　静かな　人です｜。
← 父一は　一とても　一静かな　一人一です。

単語は、
　ものの名前を表す語
　動作を表す語
　状態を表す語
　単語の下について文節をつくる語
などに分けることができる。

↓「ぼく」「船」「模型」「父」「人」
↓「作っ」
↓「大きな」「とても」「静かな」
↓「は」「の」「を」「た」「です」

例題

次の文は、いくつの単語からできていますか。その数を書きなさい。

兄の友人から借りた本を読む。

まず文節に分け、さらに単語に分ける。
兄の｜友人から｜借りた｜本を｜読む｜。
← 兄一の一友人一から一借り一た一本一を一読む。

答え 九

問題

次の各文はいくつの単語からできていますか。その数を**漢数字**で書きなさい。

(1) 近所の公園で弟と遊ぶ。　［　］
(2) 長い坂道をゆっくり上る。　［　］
(3) となりの部屋から美しい音楽が聞こえる。　［　］

単語

(1) 七
(2) 五
(3) 八

ワンポイントアドバイス

(1) 近所の公園で弟と遊ぶ。
(2) 長い坂道をゆっくり上る。
(3) となりの部屋から美しい音楽が聞こえる。

単語

月　日　年　組　番　名前

正答数　／21　自己評価マーク

1 次の各文はいくつの単語からできていますか。その数を**漢数字**で書きなさい。

(1) 鳥が枝の上にいる。［　　］
(2) 今日はとても暑い。［　　］
(3) きれいな花が咲いた。［　　］
(4) 森の中はとても静かだ。［　　］
(5) 白い看板にきれいな字を書いた。［　　］
(6) 村の東に川がある。［　　］
(7) 家に帰って勉強する。［　　］
(8) この教室はたいへん明るい。［　　］
(9) 今年の冬は暖かい。［　　］
(10) 白く大きな犬がじっとこちらを見ていた。［　　］

2 次の各文に／を入れて、単語に分けなさい。

(1) 海に行きたい。
(2) あの山はながめがよい。
(3) 夏の日差しは厳しい。
(4) 夏休みの宿題に取り組む。
(5) 日食は太陽が月に隠れる現象だ。
(6) 夕方に涼しい風が吹いた。
(7) 災害に備えて非常食や水を蓄える。
(8) 雨が降ってきたので洗濯物を取り込む。
(9) 続きは明日貸してあげるよ。
(10) 駅伝の選手になって活躍することが目標です。
(11) いつも仲良しの二人がけんかをするはずがない。

単語

1

(1) 七　(2) 四　(3) 五　(4) 六　(5) 八　(6) 七　(7) 五
(8) 五　(9) 五　(10) 十一

2

(1) 海／に／行き／たい。
(2) あの／山／は／ながめ／が／よい。
(3) 夏／の／日差し／は／厳しい。
(4) 夏休み／の／宿題／に／取り組む。
(5) 日食／は／太陽／が／月／に／隠れる／現象／だ。
(6) 夕方／に／涼しい／風／が／吹い／た。
(7) 災害／に／備え／て／非常食／や／水／を／蓄える。
(8) 雨／が／降っ／て／き／た／ので／洗濯物／を／取り込む。
(9) 続き／は／明日／貸し／て／あげる／よ。
(10) 駅伝／の／選手／に／なっ／て／活躍する／こと／が／目標／です。
(11) いつも／仲良し／の／二人／が／けんか／を／する／はず／が／ない。

漢字の部首

フォローアップ

名前	組 番	月 日	正答数 /5

ねらい ●漢字の部首について理解する。

要点チェック

●漢字の部首

漢字を分類する基準となる共通部分を部首という。

・へん■　例 にんべん(体)　りっしんべん(快)　ごんべん(語)
・つくり■　例 りっとう(刊)　あくび(欲)　ふるとり(雑)
・かんむり■　例 くさかんむり(花)　うかんむり(家)　あめかんむり(雪)
・あし■　例 したごころ(思)　れんが(れっか)(熱)　さら(盛)
・たれ■　例 がんだれ(原)　まだれ(店)　やまいだれ(病)
・にょう■　例 しんにょう(道)　えんにょう(延)　そうにょう(起)
・かまえ■■■　例 もんがまえ(間)　はこがまえ(区)　くにがまえ(国)

部首の名称(めいしょう)には特殊(とくしゅ)なものも少なくないので、部首の名称と形をいっしょに覚える必要がある。

冖 → れんが
竹 → たけかんむり
牛 → うしへん
斤 → おのづくり

例題

次の①～④の漢字の部首を、あとから一つずつ選びなさい。

① 無　② 第　③ 特　④ 断

1 けものへん　**2** おのづくり
3 れんが　**4** わかんむり
5 しんにょう　**6** たけかんむり
7 うしへん　**8** とだれ

答え ① **3**　② **6**　③ **7**　④ **2**

問題

次の(1)～(4)を部首とする漢字を、あとの□から一つずつ選びなさい。

(1) うかんむり　(2) まだれ
(3) しめすへん　(4) えんにょう

1 進　**2** 神　**3** 厚　**4** 薬
5 宇　**6** 広　**7** 補　**8** 建

(1)［　］　(2)［　］　(3)［　］　(4)［　］

問題

漢字とその部首の組み合わせとして、適切なものを、次から一つ選びなさい。［　］

1 積 ― きへん　**2** 律 ― さんずい
3 部 ― おおがい　**4** 独 ― けものへん

漢字の部首

4

(1) **5**　(2) **6**　(3) **2**　(4) **8**

ワンポイントアドバイス

「進」の部首は「しんにょう」、「厚」は「がんだれ」、「薬」は「くさかんむり」、「補」は「ころもへん」です。

「積」の部首は「のぎへん」、「律」は「ぎょうにんべん」、「部」は「おおざと」です。

漢字の部首

月 日　年 組 番　名前

正答数 ／16　自己評価マーク

J1JA3_005

1 次の漢字の部首を、あとの□から一つずつ選びなさい。

(1) 容〔　〕　(2) 慣〔　〕
(3) 院〔　〕　(4) 空〔　〕
(5) 原〔　〕　(6) 割〔　〕
(7) 点〔　〕　(8) 庭〔　〕
(9) 起〔　〕　(10) 泳〔　〕

1 こざとへん　**2** りっしんべん
3 まだれ　**4** がんだれ
5 うかんむり　**6** あなかんむり
7 さんずい　**8** りっとう
9 そうにょう　**10** れんが(れっか)

2 次の三つの漢字を別の漢字にできるような、共通する部首を書きなさい。

(1) 首 刀 軍〔　〕
(2) 昔 固 立〔　〕
(3) 志 方 成〔　〕
(4) 内 工 従〔　〕
(5) 川 客 令〔　〕
(6) 大 木 玉〔　〕

漢字の部首

1

(1) **5**

(2) **2**

(3) **1**

(4) **6**

(5) **4**

(6) **8**

(7) **10**

(8) **3**

(9) **9**

(10) **7**

2

(1) 辶

(2) 亻

(3) 言

(4) 糸

(5) 頁

(6) 口

J1JA3_005

歴史的仮名遣い

名前　組　番　月　日　正答数　／5

ねらい　●歴史的仮名遣いについて理解する。

要点チェック

●**歴史的仮名遣い**…現代の発音や表記とは異なる、平安時代中頃の発音や表記に合わせた書き表し方。

〈歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに書き改めるときの原則〉

歴史的仮名遣い	現代仮名遣い	例
語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」	「わ・い・う・え・お」	・かよふ→かよう ・おこなひ→おこない
助詞以外の「ゐ・ゑ・を」	「い・え・お」	・まゐる→まいる ・ゆゑ→ゆえ ・をかし→おかし
「ぢ・づ」	「じ・ず」	・あぢきなし→あじきなし ・めづらし→めずらし
母音の連続「au・iu・eu」	「ô・yû・yô」	・やう(yau)→よう(yô) ・かなしう(siu)→かなしゅう(syû) ・けふ→けう(keu)→きょう(kyô)

例題

「ゐる」を現代仮名遣いに直したものを、次から一つ選びなさい。

1 いる　**2** うる　**3** える　**4** おる

答え　**1**

どの部分が現代仮名遣いと違っているのかをとらえ、右の原則に沿って書き改めたものを選ぶ。

・「ゐる」は、「ゐ」が現代仮名遣いと異なる。

→助詞以外の「ゐ」は「い」と書き改める。

問題

次の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して書きなさい。

(1) かたはら［　　］
(2) とふ［　　］
(3) をさをさ［　　］
(4) あひづ［　　］
(5) あふぎ［　　］

歴史的仮名遣い

(1) かたわら
(2) とう
(3) おさおさ
(4) あいず
(5) おうぎ

ワンポイントアドバイス

(3) 「をさをさ」は、あとに打ち消しの語を伴って、「ほとんど～ない」という意味を表します。

(5) 「au・iu・eu」という母音の連続は、「ô・yû・yô」と直します。だから、「あふぎ」→「あう(au)ぎ」→「おう(ô)ぎ」と直します。

歴史的仮名遣い

月　日　年　組　番　名前

正答数　／20　自己評価マーク

1 次の――線部の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して書きなさい。

(1) やうやう［　　］
(2) いはひ［い　　］
(3) おそろしう［おそろ　　］
(4) かよふ［かよ　　］
(5) けふ［　　］
(6) 移りかはる［移りか　る］
(7) いほり［い　り］
(8) かをる［か　る］
(9) かひなし［か　なし］
(10) さそふ［さそ　］
(11) こずゑ［こず　］
(12) こほり［こ　り］
(13) 言い伝へ［言い伝　］
(14) こいしう［こい　］

2 次の〈古典の文章〉の――線部①～⑥の歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して、**全てひらがな**で書きなさい。

〈古典の文章〉

人の顔にとりわきてよしと見ゆる所は、度(たび)ごとに見れども、あなを①かし、②めづらしとこそおぼゆれ。絵など、あまたたび見れば、目も立たずかし。③近う(ちかう)立てたる④屏風(びやうぶ)の絵などは、いとめでたけれども、見も入れられず。人のかたちは、⑤をかしうこそあれ。にくげなる⑥調度(てうど)の中にも、一つよき所のまもらるるよ。みにくきも、さこそはあらめと思ふこそわびしけれ。

（「枕草子(まくらのそうし)」より）

〈現代語訳〉

人の顔で格別にすばらしいと見えるところは、何度見ても、ああすばらしい、めったにないことだと思われる。絵などは、何度も見れば、目も引かれなくなってしまう。身近に立てた屏風の絵などは、たいへんすばらしいけれども、注意深く見るということはない。人の顔かたちは、興味深いものだ。（見た目が）にくらしい調度品の中にも、一つよいところは目に留まるものだ。みっともないところも、そういうものだろうと思われるのがわびしく感じられる。

① をかし［　　］
② めづらし［　　］
③ 近う［　　］
④ 屏風［　　］
⑤ をかしう［　　］
⑥ 調度［　　］

歴史的仮名遣い

1

(1) ようよう　(2) (い)わい　(3) (おそろ)しゅう　(4) (かよ)う

(5) きょう　(6) (移りか)わ(る)　(7) (い)お(り)　(8) (か)お(る)

(9) (か)い(なし)　(10) (さそ)う　(11) (こず)え　(12) (こ)お(り)

(13) (言い伝)え　(14) (こい)しゅう

2

① おかし　② めずらし　③ ちこう　④ びょうぶ

⑤ おかしゅう　⑥ ちょうど

故事成語

組	番	月	日	正答数
名前				／3

フォローアップ

ねらい　●故事成語について理解する。

要点チェック

●故事成語…中国に伝わる昔話などから生まれた短い言葉。

【覚えておきたい故事成語】

・一挙両得　意味　一つのことをすることで、同時に二つの利益を得ること。
・杞憂　意味　あれこれと無用の心配をすること。
・漁夫の利　意味　争っている当事者ではなく、第三者が利益を得ること。
・五十歩百歩　意味　多少の違いがあるにしても、結局たいした違いはないこと。
・他山の石　意味　つまらないことであっても、自分を磨くのに役に立つということ。
・蛇足　意味　付け足された余計なもの。
・背水の陣　意味　決死の覚悟で事に当たること。
・矛盾　意味　話や物事のつじつまが合わないこと。

※故事成語には、由来となる話やいわれがある。

例　杞憂…中国の杞の国のある人が、もし天が崩れ落ちてきたらどうしようかと、起こり得ないことを憂えた、という故事に由来する。

例題

「五十歩百歩」と似た意味の故事成語を、次から一つ選びなさい。

1　圧巻
2　大同小異
3　推敲
4　一挙両得

答え　2

故事成語の意味をとらえ、似た意味の故事成語を選ぶ。

【似た意味の故事成語】

・「大同小異」
　→「少しの違いはあるが、大体は同じであること。」

問題

次の意味を表す故事成語を、あとの［　］から一つずつ選びなさい。

(1)　周囲の全てが敵であること。　［　　］
(2)　付け足された余計なもの。　［　　］
(3)　人生の幸不幸を予測することはできない。　［　　］

1　蛇足　2　塞翁が馬　3　悪事千里を走る　4　四面楚歌　5　矛盾

故事成語

(1) **4**　(2) **1**　(3) **2**

ワンポイントアドバイス

(2)「蛇(へび)の絵を描(か)く競争をしたとき、最も早かった男が、調子に乗って蛇に足を描き、負けてしまった。」という故事に由来します。

(3)「飼っていた馬に逃(に)げられたが、その馬は、よい馬を連れて帰ってきた。その馬に乗った息子(むすこ)は落馬して骨折してしまったが、そのおかげで戦争に行かずにすんだ。」という故事に由来します。

故事成語

1 次の故事成語の意味を、あとの［　］から一つずつ選びなさい。

(1) 圧巻（　　）
(2) 他山の石（　　）
(3) 切磋琢磨（　　）
(4) 大器晩成（　　）
(5) 画竜点睛（　　）
(6) 呉越同舟（　　）
(7) 四面楚歌（　　）
(8) 矛盾（　　）

1 敵と味方が同じ場所に居合わせること。
2 すぐれた才能のある人は、若いころは目立たなくても、次第に立派になること。
3 つじつまが合わないこと。
4 他人のつまらない言動も、自分の役に立つということ。
5 物事を完成させるのに必要な最後の仕上げ。
6 周りが全て敵であること。
7 仲間と励まし合いながら努力すること。
8 書物などの中で、最もすぐれた部分。

2 次の各文の□に当てはまる故事成語を、あとの［　］から一つずつ選びなさい。

(1) 毎日時間を惜しんで勉強した兄が大学に受かったのは、まさに□というものだ。（　　）
(2) 何度も□しながら文章を書いて、満足のいくものになった。（　　）
(3) □というように、僕と弟がどのテレビ番組を見るかを争っている間に、妹にリモコンを取られてしまった。（　　）
(4) 今日から旅行に行くというのに、大雨のせいで、電車もバスも止まってしまった。もはや□だ。（　　）
(5) 友人の描いた絵はとてもすばらしい。しかし、私が見て気づいたことがいくつかあるので、□かもしれないが、アドバイスをしておいた。（　　）
(6) マラソンで、兄は十三位、弟は十五位という□の成績だった。（　　）

1 蛍雪の功　**2** 漁夫の利　**3** 蛇足
4 推敲　**5** 万事休す　**6** 五十歩百歩

故事成語

1

(1) **8**

(2) **4**

(3) **7**

(4) **2**

(5) **3**

(6) **6**

(7) **1**

(8) **5**

2

(1) **1**

(2) **4**

(3) **2**

(4) **5**

(5) **3**

(6) **6**

ことわざ

名前	組	番	月	日	正答数	/3

ねらい ●ことわざについて理解する。

要点チェック

●ことわざ…生活の中でのちえや教えを表した短い言葉。

【覚えておきたいことわざ】

・猿も木から落ちる　意味　その道に優れている人でも、失敗することがある。
・猫に小判　意味　価値のあるものでも、その価値が分からない者には何の値打ちもないということ。
・のれんに腕押し　意味　何の手応えもないこと。
・月とすっぽん　意味　非常に差があること。
・絵に描いた餅　意味　一見すばらしいが、実際には何の役にも立たないこと。
・急がば回れ　意味　危険な近道を行くより、遠回りでも安全な道を行くほうが、結局は早く着くということ。

※ことわざには、似た意味のものがある。

例　猿も木から落ちる――かっぱの川流れ――弘法にも筆の誤り
　　猫に小判――豚に真珠　のれんに腕押し――ぬかに釘

※ことわざには、対照的な意味のものがある。

例　急がば回れ←→善は急げ（よいと思ったら、すぐに実行するのがよいということ。）

例題

「猿も木から落ちる」と似た意味のことわざを、次から一つ選びなさい。

1　猫に小判
2　月とすっぽん
3　のれんに腕押し
4　かっぱの川流れ

答え　4

ことわざの意味をとらえ、似た意味のことわざを選ぶ。
・「猿も木から落ちる」
→「その道に優れている人でも、失敗することがある。」
【似た意味のことわざ】
・「かっぱの川流れ」
・「弘法にも筆の誤り」

問題

次の□に当てはまることわざを、あとの［　］から一つずつ選びなさい。

(1)　この計画を実現するのは不可能で、まさに□だ。　［　　］
(2)　弟は高い事典を買ってもらった。しかし、□で、全く使っていない。　［　　］
(3)　□というから、時間がかかっても確実な方法にしよう。　［　　］

1　猫に小判　　**2**　月とすっぽん　　**3**　のれんに腕押し
4　急がば回れ　　**5**　絵に描いた餅

ことわざ

(1) **5**　(2) **1**　(3) **4**

ワンポイントアドバイス

(1)「実現するのは不可能」という言葉に着目しましょう。

(2)「高い事典」を「使っていない」ことから考えます。

(3)「確実な方法」にするのがよいということから考えます。

たしかめドリル ことわざ

月　日　年　組　番　名前

正答数　／19　自己評価マーク

1 次の□に当てはまる動物名をひらがなで書き、ことわざを完成させなさい。

(1) □百まで踊り忘れず　〔　〕
(2) □で鯛を釣る　〔　〕
(3) 井の中の□大海を知らず　〔　〕
(4) 捕らぬ□の皮算用　〔　〕
(5) 能ある□は爪をかくす　〔　〕

2 次のことわざと似た意味のことわざを、あとの［　］から一つずつ選びなさい。

(1) 弘法にも筆の誤り　〔　〕
(2) 弱り目に祟り目　〔　〕
(3) のれんに腕押し　〔　〕
(4) 猫に小判　〔　〕
(5) 虻蜂取らず　〔　〕
(6) やぶから棒　〔　〕
(7) 良薬は口に苦し　〔　〕
(8) 念には念を入れる　〔　〕

1 豚に真珠
2 備えあれば憂いなし
3 忠言耳に逆らう
4 泣き面に蜂
5 猿も木から落ちる
6 二兎を追う者は一兎をも得ず
7 寝耳に水
8 ぬかに釘

3 次の□に当てはまることわざを、あとの［　］から一つずつ選びなさい。（ただし、同じことわざは二度使えません。）

(1) いくらよいアイデアでも、実現しなければ□だ。　〔　〕
(2) 何事もすぐにあきらめてはいけない。□だよ。　〔　〕
(3) □と言うから用心にこしたことはないだろう。　〔　〕
(4) あせらずにじっくりやろう。□と言うじゃないか。　〔　〕
(5) 相手のミスによって、□の決勝点が入った。　〔　〕
(6) □、今手伝っておけばきっとよいことがあるよ。　〔　〕

1 急がば回れ
2 転ばぬ先の杖
3 絵に描いた餅
4 棚からぼた餅
5 石の上にも三年
6 情けは人のためならず

ことわざ

1

(1) すずめ

(2) えび

(3) かわず

(4) たぬき

(5) たか

2

(1) **5**

(2) **4**

(3) **8**

(4) **1**

(5) **6**

(6) **7**

(7) **3**

(8) **2**

3

(1) **3**

(2) **5**

(3) **2**

(4) **1**

(5) **4**

(6) **6**